

市政刷新

2015年 春号

発行者／福岡市議会議員 調崇史(福岡市民クラブ)



正論を市政に！
福岡市議会議員(城南区) 調たかし

議会活動！ 3月条例予算特別委員会での質疑。

■カワイイ区事業を廃止へ 議場での追及・実る

条例予算特別委員会(～3月13日)で質問に立ちました。カワイイ区事業は平成27年度予算に関連する経費が計上されず、今年度末に事業が廃止されることになりました。

私は昨年6月議会の一般質問で、①広告代理店に丸投げの事業手法に問題がある②市民の関心が低下している③税金の無駄遣いである、といった点を挙げて、事業の廃止を強く求めた経緯があります。6月議会では高島市長以下、当局が口を揃えて「カワイイ区事業は企業による活用段階に移っている」などと事業継続の意思を示しました。それが今回の質問では一転して「目的を達成したのでやめる」という答弁です。ですが、昨年6月以降の関連グッズなど新たな活用例は、どれも大した話題にすらなっていません。当局の説明は詭弁だと思えます。

ともあれ、事業をやめること自体はまっとうな判断です。高島市長にはカワイイ区の失敗を教訓にして、同じようなムダ事業を二度と打たないよう心掛けてもらいたいと思います。

■福祉バス事業は地域の「負担増」に 貸切バスの価格上昇の影響じわり

平成24年4月、関越道で格安ツアーバスが事故を起こし46人が死傷したことを受けて、国交省はバス事業者、運転前後の点検や出庫から帰庫までの行程も利用者の負担とすることなどを義務付ける料金制度を、平成26年4月から実施しています。この値上げの影響で、今年度は地域行事のバス利用にあたり、役員の方々が頭を悩ませている姿が見られました。平成27年度からは、福岡市が実施する「福祉バス」でも、値上げの影響が出ることになります。

福祉バスは高齢者、障がい者の移動支援、公民館が主催する高齢者教室のバスハイクなどにあたり、市が貸切バス代の補助を行うものです。これまでは老人クラブが100キロメートル程度の行程で7～8時間の大型バスを約40人で利用した場合、バス料金は補助上限額の範囲内であったため、利用者に負担は生じませんでした。平成27年度からは同じ条件だと参加者1人あたり約800円の負担が生じます。公民館主催の高齢者教室についてはこれまで40人で約500円の負担が1,300円となり、こちらも800円の負担増となります。

今回の質問では利用者の負担軽減を求めましたが、前向きな答弁は得られませんでした。しかし事業の重要性に照らし、今後も当局の対応を求めたいと思います。

■「天神ビッグバン」プロジェクト「玉突き」での建て替え構想を示せ

福岡市は天神地区で今後10年以内に30棟の民間ビルの建て替えを推進し、雇用増加や大きな波及効果を狙うとした天神ビッグバンプロジェクトを打ち出しました。市の試算によると、天神地区の約80ヘクタールの範囲内でのビルの建て替えにより、総延床面積が現在の1.7倍に、エリア内の雇用者数が2.4倍になると見込んでいます。また直接の建設投資効果として約2900億円、事業完了後は毎年、約8,500億円の新たな経済効果が生じるとしています。

天神地区は築年数が40年以上を経過した古いビルが多く、耐震性の問題を抱えていることはもちろん、都市の成長の観点からも、建て替えを促進することが課題になっていました。市はこのプロジェクトで、航空法の高さ制限や、容積率の緩和などの条件整備を進めて建て替え機運を高め、企業誘致に取り組むことで新たな都心機能を生み出したいとしています。が、現段階で今後10年間で建て替えが見込まれるのは、天神1丁目南エリアの14棟のみであり、残りは今後の取り組み次第です。

▶「旧大名小跡地」の活用を

福岡市で最も古い公立小学校だった旧大名小は、舞鶴小中連携校の開設に伴い平成26年3月に閉校しました。旧大名小は明治通り沿いの一等地にあり、既に地域との取り組みで一部校舎の保存、グラウンドと同程度の広場の整備などが方針決定されています。一方で残る約6～7,000平方メートルの今後の活用については、現在、学識経験者や地域の代表者などで作る検討委員会が協議をしており、都心部の貴重な公有地として注目されます。

今回の質問では私は、旧大名小跡地を民間ビルの建て替え用地として示し、そのビルがもともと建っていた場所に別のビルが建て替えを進めていくといった、「玉突き」のプランを市が示すべきだと提案しました。福岡市出身の総理大臣である田中弘毅をはじめ、多くの偉人を輩出した歴史ある小学校の跡地です。福岡都心100年の計を描くために生かすことこそふさわしい活用方法ではないでしょうか。

天神地区のビルの建て替えが、規制緩和などの条件整備だけで進むとは思えません。市は「種地」を出して玉突きを誘発するなど、積極的に先導役を果たすべきだと思います。



総括 4年間の任期を終えるにあたり ～議会活動の総括～

1. 科学館に「直通エスカレーター」設置へ

福岡市青少年科学館は九州大学六本松キャンパス跡地に平成29年度中にオープンする予定です。この整備事業の基本計画が議論される過程で、科学館が民間ビルに賃借入居するプランが浮上しました。1～2階が商業施設、3階以上に科学館が入居するという内容です。私が第2委員会での議論の中で、動線計画について質問をしたところ、「商業施設の中を通り、科学館に上がっていく」という答弁だったことからびっくり仰天。それ以降、「子どもが犯罪や不慮の事故に巻き込まれる危険がある」「科学館への単独動線がなければ計画は認められない」と繰り返し強弁するとともに、担当者との折衝を重ねました。

このほど示された最終的な要求水準書には、地上から科学館へ向かう直通エスカレーターの設置が明記されました。私自身、3人の娘を育てる父親です。子育て世代の視点を施設に反映することができてよかったと思っています。



科学館直通エスカレーターの設置



※写真イメージ 福岡市提供

2. 生活道路の陥没防止対策が実現

平成24年9月議会の一般質問では、生活道路の陥没防止に向けた取り組みを求めました。福岡市では地下鉄周辺や幹線道路で道路陥没の原因となる路面下の空洞の調査を行ってききましたが、市民が普段歩いている生活道路にまで調査が及ばず、市民がケガをするケースが毎年のように起きていました。

質問では、路面下の空洞を高い確度で探することができる空洞探査車による調査を生活道路でも実施することを求めました。平成25年度には約9,000万円の予算をつけて事業化されました。市

が管理する道路は約3,800キロメートルですが、そのうち800キロメートルの生活道路で調査が行われ、約1,500カ所の空洞(疑いも含め)を探知、そのうち29カ所は空洞の直径が最大2メートルに及ぶものもあったため、緊急

補修工事が行われました。

この事業は福岡市が現在も予算を積極確保しており、自治体における道路の安全管理の先進事例として、全国各地から視察が相次いでいます。

質問の成果として、ケガや事故を少しでも防ぐことにつながったとすれば、この上ない喜びです。

生活道路での空洞調査の実施を提案





福博そらつく記

オリンピックに間に合う!?

地下鉄七隈線の博多駅までの延伸事業が着工し、博多駅前や中間駅となるキャナルシティ周辺で工事が始まりました。この事業の完了予定は平成32年度、つまり2020年の東京オリンピックの年なのです。私がまだ生まれる前の話ですが、昭和39年、前回の東京オリンピックの年には、東海道新幹線が開会に間に合うように開業しました。5年後に迫ったオリンピックの期間中は、福岡市にも多くの観光客が流入するでしょうし、もし地下鉄七隈線が博多駅から直接、天神南、渡辺通、薬院や六本松まで行けるようになっていれば、多くの利用が見込めるでしょう。

3月の予算勉強会で交通局に「オリンピックの開会に間に合いませんか?」と尋ねたところ、「ちょっと厳しいです…」との答え。技術的なことはよく分からないのですが、せつかくのチャンスが惜しいから何とか間に合わないものかしらと思っています。

しらべ たかし

調崇史プロフィール

昭和53年 4月17日生 36歳

- 1978年 ● 福岡市生まれ
- 1991年 ● 七隈小学校卒業
- 1994年 ● 梅林中学校卒業
- 1997年 ● 修猷館高校卒業
- 2002年 ● 九州大学法学部卒業
- TNCテレビ西日本入社
- 2010年 ● 同社退社
- 2011年 ● 福岡市議選初当選
- 現在、金山団地在住 妻と3女



フェイスブックやブログ等と連動したサイトで、日々の活動の様子を紹介しています。また、オフィシャルサイトからは市政に対するご意見を送れます。皆様の声を聞かせて下さい!

ホームページをリニューアルしました!

www.t-shirabe.net/

調たかし 事務所

ぜひ、お立ち寄りください

〒814-0131 福岡市城南区松山2-34-17-1F

※市営地下鉄 七隈駅から徒歩3分

TEL:092-834-9984

FAX:092-834-9983

mail:info@t-shirabe.net